



那賀町立相生小学校

あいおい

令和6年度学校便り

NO.36

2025.2発行

発行責任者

谷 多美子

「那賀町を愛する心」弁論大会 2月8日(土)

那賀町地域交流センターで第14回「那賀町を愛する心」少年の主張弁論大会が開催されました。那賀町本庁前にも積雪や薄氷が広がる中、11名の小学生が那賀町への想いについて熱意をこめて発表しました。始めに、橋本浩志町長より、「いかに多くの人に伝えられるか競う大会であり、相手に伝えることはいろいろな場面で大切になる。目の前にいる人に向かって伝えてください。」と激励の言葉をいただきました。



この弁論大会において、相生小学校では夏季休業日中より大会出場を目指して作文を書き、たくさんの4、5年生の応募がありました。どの作品も、那賀町での豊かな体験に基づいた郷土愛あふれるものでした。応募してくれた児童の皆さんには心より感謝いたします。その中から、大会に出場された6名の弁論を紹介します。

神野 杏蒔さん「那賀町を愛する心」那賀町山のおもちゃ美術館、相生森林美術館、林業ビジネスセンターの魅力を実際に見たこと、感じたことをもとに伝え、聞く人が地域の施設のよさを再発見できました。

新田 美侑さん「私の大好きな那賀町」晩茶づくり、稲刈り、地域遠足、自然体験、地域の人、運動会などの団結力などたくさんの自分の経験を紹介し、地域のありのままの魅力を優しい口調で伝えました。聞いていて改めて地域のよさを実感できました。

瀧 千晴さん「みんなが楽しめるおもちゃ美術館」山のおもちゃ美術館の魅力を詳しく伝えてくれました。美術館には那賀町全体の魅力が凝縮されていることが紹介されました。美術館を支えるスタッフの思いもそこで働くお父さんの姿を通して伝えることができました。発表を聞いて、まだ行ったことがない人も足を運びたい内容でした。

藤崎 碧さん「ぼくが好きな町なか町」茶葉の摘み取りから販売までたくさん体験した晩茶づくりや、自然豊かな那賀町の山を守る林業などふるさと学習で感じたことを伝えました。家族で柚子の収穫作業をする姿も目に浮かびました。那賀町のいいところを見つけるために地域に出て行き関わるようにしたいと頼もしい主張で結びました。

井本 秀桜さん「那賀町のいいところ」鮎のつかみ取りや那賀町の花火など那賀町のならではのよさを見いだした経験を力強い声で伝えていました。小規模校のよさや、地域を人の温かい声かけ、おじいちゃんの柚子など、地域の「自慢」を大切にするとともに、たくさんの人に伝えたいと堂々と発表しました。

中野 美登さん「私の自まんの場所」両親が運営する山の家、源流碑から見る夕焼け、剣山スーパー林道の魅力などを紹介は、誰もが訪れたい内容でした。自分自身もクレープ屋さんの夢を持ち、季節ごとのイベント開催、キャンプ場やコテージの設置など那賀町の可能性を伝えました。

最後に的場英登教育委員より、「緊張していたと思うが、何度も練習した成果を発揮した素晴らしい主張であった。提案した内容を実行に移していただきたい」と講評をいただきました。最優秀賞4年井本 秀桜さん、優秀賞5年中野 美登さん、4年藤崎 碧さんおめでとうございます。